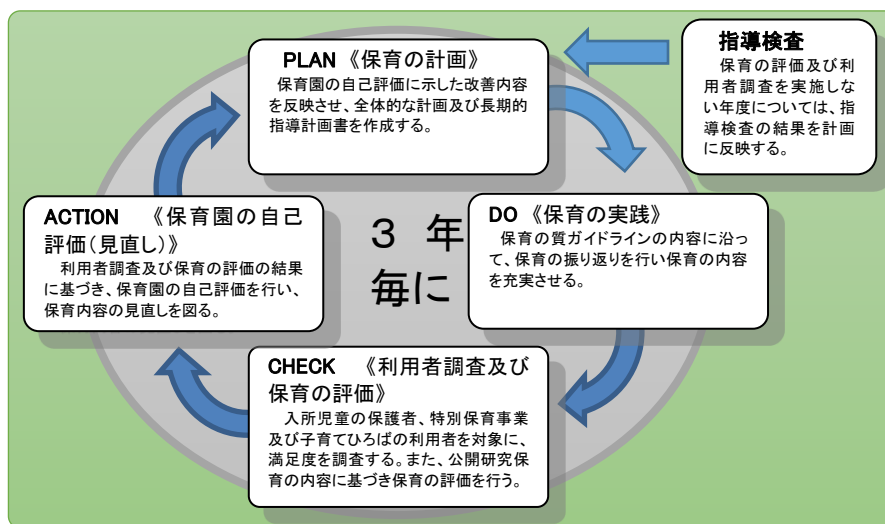


令和3年度 八王子市立保育園（公設公営園） 保育所の自己評価

国は、平成29年（2017年）3月31日に公示された新保育所保育指針の中で、「保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。」と明記しています。また、八王子市は、平成30年12月に、公立保育園が八王子市の保育における中核的な役割を果たしていくため、「八王子市（公設公営園）保育の質ガイドライン」を策定しました。

保育園が、保育施設としてその運営や保育内容等について保護者の皆様や地域の皆様に説明することは、保育所の重要な責務です。このことを踏まえ、公立保育園では保育の質の向上を図るために、利用者調査、公開研究保育とともに保育所の自己評価を実施しました。

今後は、評価の結果を踏まえ当該保育所において保育内容等の改善を図るとともに、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより強固なものとなるようにしてまいります。



評価責任者

八王子市子ども家庭部子どもの教育・保育推進課 津久田保育園
施設長 大澤 律子

令和3年度（2021年度） 保育所の自己評価 評価結果

評価項目	評価結果	評価結果・具体的事例および改善方法
<p>保育の方針 1</p> <p>子どもが人格を形成していく上で、自己肯定感を持つようにすることが大切である。職員は、子どものあるがままを受け止め、自分の意思を自由に表現できるように保育の中で援助していく。</p>	85%	<p>保育者等は、子どもが安心感をもって保育園生活が送れるように子どもに寄り添い、応答的な態度で接してきた。また、子ども自身が自己選択、自己決定できる機会を設けてきた。</p> <p>今後も、子どもが生活の中で自己を十分に発揮し、主体的に活動できるような環境づくりに努めていく。</p>
<p>保育の方針 2</p> <p>子どもが保育園生活をおくる上で必要なルールを知らせるとともに、人にはそれぞれ違いがあり、その違いを認め合うことを伝えていく。</p>	86%	<p>保育者等は、日々の生活の中で子どもとの愛着関係の形成に努めてきた。また、そのなかで、ルールを守ることの大切さに気づくよう援助をしてきた。</p> <p>今後は、それぞれの発達の違いを肯定的に受け止め、特別な支援を必要とする子どもの保育については、全体で話し合う機会を設けるように努める。</p>
<p>保育の方針 3</p> <p>人の成長には豊かな経験が必要であり、特に乳幼児期においてはそれが実体験でなくてはならない。人的・物的な環境を整え、自然に集団となつてあそぶ中で様々な体験ができるようにしていく。</p>	88%	<p>保育者等は、子どもが集団となつて遊び、人と関わる喜びが実感できるような環境をつくり、遊びの中でそれぞれが自己発揮できるような援助に努めた。</p> <p>コロナ終息後には、地域施設の利用や地域の人たちと接する機会を設けられるように努める。</p>
<p>食育</p> <p>食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみながら自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切な事項である。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立・栄養教育・心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。</p>	90%	<p>保育士等は、自園での給食の提供等について検討を重ね、子どもが楽しい雰囲気の中で食事ができるように努めてきた。</p> <p>食物アレルギー児等への食事提供に関しては、ダブルチェック、トリプルチェックの体制を設け、これまで以上に誤食防止を徹底する。</p>
<p>子育て支援</p> <p>子どもの健やかな育ちを保障するため、家庭との連携を深めるとともに、在園児保護者及び在宅の子育て家庭における養育力が向上するよう援助していく。</p>	81%	<p>保育行事等の中止が相次いだ中、保護者に対し、コミュニケーションを通して子どもの姿を知る機会を保障してきた。また、直接的には、子どもの姿を肯定的に伝えながら、個別の発達課題を共有するよう努めた。</p> <p>コロナ終息後には、子育てなどに関する、講習会や研修会を再開し、地域住民への参加呼び掛けに努める。</p>
<p>職員の資質向上</p> <p>保育者に求められる専門性や倫理観を高めるため、保育の質の確保に向けた取り組みを組織的に行う。</p>	79%	<p>八王子市立保育園（公設公営園）保育の質ガイドラインを基盤に園内研修に取り組み、保育力の向上を図った。</p> <p>保育者等が個別で受講した研修内容については、報告や職員が供覧できる環境を整えられるよう努める。</p>
<p>安全管理と災害への備え</p> <p>日々、子どもたちの健康に留意するとともに、災害や事故に対する準備と心構えを持ち、それに係る訓練などを欠かさずに、子どもの安心・安全を守る。</p>	93%	<p>保育士等は、子どもが安心し、そして安全に過ごせる環境づくりに努めてきた。また、子どもの健康状態や連絡事項の周知については、連絡票の使用を試みてきたが、さらに徹底するように努めていく。</p>